

2020年度 学校評価票(総括案)

I.めざす学校像(ミッションステートメント「建学の精神」)(長期的目標)

本学の建学の精神は、キリスト教精神である「自由と愛」です。自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とは一人ひとりの人格と主体性を尊重すること。「愛」とは互いに仕え合いながら他者と共に生きることです。この自由と愛の精神は、単にキリスト教の立場だけでなく、全ての人間が一致する普遍的な理念であり、人類共通の目標です。人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想を目指してチャレンジしつづけていくこと、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神であり、「世界の市民」への道なのです。

II.最重要目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1.建学の精神を日常にする	(1)本校の校風・キリスト教精神に基づく教育方針をより多くの人に理解されるよう努める。	(1)より多くの人に学校説明会などに来てもらえるよう府外での広報活動も強化して行う。	入試説明会の去年の来場者数を上回る。	△	新型コロナウイルスの影響で来場者数が前年度に比べ減少した。
2.大学合格実績の向上	大学入学共通テストに対応できるよう各教科、各コース、進路指導部が連携して綿密な進路指導を行う。	従来から実施していたセンターマラソンに相当する講習を実施するとともに、難関大学の対策講座等を実施する。	国公立現役合格者3割、京大合格者10人を指標とする。	○	国公立現役合格者は4割2分、また京大合格者数は現役と既卒者の合計が10人に達した。
3.いのちの教育のさらなる推進	生命の尊さ、かけがえのなさと共に、人知を超える「いのち」の神秘を知る心を育てる。	いのちに関連させたプログラムを実行する。	生徒・保護者・教職員自身の実感を伴うものとなるよう学校評価アンケートでの評価を一つの指標とする。	△	コロナの影響もあり実施できなかった行事もあった。

III.中期的目標(3年が目安)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1.キリスト教精神をたいせつにする	キリスト教精神への理解と共感の幅を広げる。またキリスト教教育・行事等を通じ、他者と自分自身を大切にできる心や寛容の心を育む	①朝の礼拝を大切に ②自習課題と振り返り授業の充実 ③キリスト教行事への理解をより深める	①朝の礼拝の静粛を保つ ②教職員・生徒もお祈り・司式・奏楽ができるように ③参加しやすい、また少しでも喜びのある行事にする	①○ ②△ ③○	①先生方の理解と協力があり、生徒にも礼拝を大切にできた。 ②コロナで集まれず、生徒が役割を担う場も全体としては少なかった。 ③それでも新しいチャペルで礼拝できた中学生からはよい体験ができたとの感想が多かった。
2.授業をたいせつにする	①ベル着の徹底 ②自習課題と振り返り授業の充実 ③授業見学の発展	①ベル着の徹底 ②自習課題と振り返り授業の充実 ③授業見学の発展	①相互で確認 ②連絡方法の再検討 ③担当教員の打合せの充実	①○ ②○ ③△	③新型コロナ対応により全体では実施できなかった。代替えでオンライン授業の意見交換を実施した。
3.生活習慣の確立	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止 ④提出物の徹底 ⑤インターネット上のトラブル防止 ⑥携帯電話の使用マナーの徹底	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③遅刻管理システムの活用 ④提出状況を通して、学力の向上や信頼関係の構築につなげる ⑤ネットリティーを学ばせ人の気持ちを考えるよう指導 ⑥使い方を指導し、マナーの会得や学習時間を確保させる いずれの項目とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③昨年度比数値 ④反省文の回収 ⑤⑥問題件数の減少	①△ ②○ ③○ ④○ ⑤○ ⑥○	①自治会指導部とのさらなる連携が必要 ②～⑥概ね良好ではある。今後も継続して指導が必要。
4.活発な自治会活動の推進	①自主規律の確立 ②自治活動の活性化 ③学校行事の発展・教員の役割分担	①自主規律HRの年間計画作成。 ②HR委員会、評議委員会、文体連の役割分担、実務遂行への指導。 その他自主活動の活性化 ③文化祭委員会の活動計画への指導。各行事の目標を明確化。 事前からの教員業務分担を実施。	①執行部、各委員会活動の年間計画作成 ②活動目標、年間計画、総括 ③各行事の実行委員の獲得と意識化・役割の明確化	①△ ②△ ③○	①②新型コロナウイルスによる影響が非常に大きく、年間を通して計画的な生徒自治活動を遂行することが困難であったため、自主活動の活性化には至らなかった。 ③まだまだ不十分のところはあるが、例年とは大きく異なる内容での文化祭を何とか実施できたことは評価できる。次年度にも活かしていきたい。
5.進路について	挑戦力の育成	大学進学に対する明確な目標づくり	易きに流れるのではなく、大学進学は全力投球することのできる最大のチャンスだということを生徒達自身に理解・納得させる。	○	高い目標を最後まで維持し続け、第一志望を譲らない精神力を持った生徒達が、受験に臨んだ結果、過去にない進学実績を打ち出すことができた。 また、今回、残念な結果になった生徒達も第一志望以外で受かった大学に進学せず、次年度もう一度チャレンジするという人生の選択肢を選んだ生徒も一定数おり、今年度もそういった生徒に対するサポートを徹底したい。
6.中学の課題	①大学進学を見据えた学力向上②生きる力をはぐくむ行事の精選・発展③受験生の増加	①授業力の強化と放課後の取り組みの充実 ②昨年度に続き行事の見直しを行う。 ③広報活動の充実・奨学金制度・英語入試などの検討・プレテストの発展	①学力推移テスト ②行事検討会議の充実 ③受験生の増加	①○ ②△ ③◎	①放課後の取り組みに関しては満点教室、英検講習、SIゼミ、自習ステージの自由化とつ前進させることが出来た前進させることが出来た。結果はこれからだが常に振り返りを行い、検証・発展する必要がある。 ②行事の検討は精選の方でどういったものが具体化がまだである。 ③広報活動ではWEBの充実によりコロナ禍でも広報活動は充実させることができた。また、特待生が10名入学したことは大きな成果である。応募者も122名増(125%)の600名となった。英語入試は2022年度実施する運びとなった。
7.入試広報の充実	建学の精神を広く広報する。	国公立合格者数、一貫コースの大学合格実績のアピールを行う。	受験者数、入学者数を適正クラス数にする。	△	コロナ禍の為、外部説明会の中止や校内説明会の参加者数制限があり、例年のような広報活動が十分に出来なかった。
8.いのちの教育の推進	いのちについて知識を深める	いのちに関連させたプログラムを実行する。	年末の学校評価アンケートでのフィードバックを目安とする。	△	コロナの影響で実施できなかった行事もあった。
9.その他	①キャンパスの整備につとめる	①自習スペースのさらなる充実②F館の老朽化に伴う中長期的計画④その他施設の充実	①教員の評価②生徒保護者の満足度など	○	テモテ館の建設により、食堂、教会は新築された。第1体育館に空調を設置した。またF館教室には換気扇を取り付けた。
IV.各学年別目標(中学職会・担任会)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
中学1年	(1)基本的な生活習慣の確立 (2)学年全体の学力向上 (3)問題行動へのチームでの対応	(1)遅刻・欠席をする者に対する声かけをし、規則正しい生活を身につけさせる。欠席が続く生徒には早い段階で電話連絡・家庭訪問をする。 (2)中上位生徒はより意欲を持って自主的な学習に取り組ませる。学力不振の生徒は、提出物の徹底、基本・基礎事項の徹底を行う。 (3)問題行動に対し、担任だけ、教科担当だけで対応するのではなく、学年としてチームで対応する。	(1)怠業による遅刻数・欠席日数を例年より減少させる。 (2)課題提出率の向上と模擬試験の成績向上 (3)大小関わらず、それぞれのケースに対する実際の対応	(1)△ (2)△ (3)○	(1)ちよとした遅刻が頻発した。担任の粘り強い声掛けで、少しずつ減っていった。 (2)成績下位層の人数が多く、成績が幅広くなっている。課題提出は、その下位層ができず、居残りさせてやらせるがあまり向上はできなかった。 (3)生活指導部を中心に対応できた。

中学2年	(1)生活習慣の確立 (2)学年全体の学力向上。	(1)遅刻・欠席を減らし、規則正しい生活を身に付けさせる (2)中上位生徒はより意欲を持って自主的な学習に取り組ませる。学力不振の生徒は、提出物の徹底、基本・基礎事項の徹底。	(1)遅刻数・欠席日数の減少 (2)模擬試験、定期考査での成績向上	(1)△ (2)△	(1)担任の粘り強い指導で少しずつ減っていったものの、特定の生徒の遅刻、欠席が続いた。 (2)成績下位層の人数が多く、ますます成績の幅が広がっていった。成績下位層の課題未提出が目立った。居残りさせてやせたが、あまり成績向上の兆しが見うけられなかった。
中学3年	(1)学習習慣の確立 (2)進路選択に向けた意識作り	(1)提出物、定期試験前後の取り組み、模試 (2)大学見学、先輩による講演会等	(1)日々の提出物や定期試験前後の取り組みを確立することにより、自学自習ができる生徒を育て、それが結果につながるという成功体験をさせる。 (2)夏の勉強会時の大学訪問、学部学科調べを通じ、自分の夢をできる限り明確な形にする	(1)△ (2)△	(1)選抜コースはみなが意識を高く持ち、提出物を含め「学習するのが当たり前」という空気を醸成できた。しかし、進学コースではまだまだ未提出が目立つケースが多く、目標を達成したとは言えない。今後も継続して指導していく必要がある。 (2)東京勉強会宿で、大学見学や先輩の講演を予定していたが、コロナ下での中止により、実施できなかったのが残念である。
高校1年	(1)学習習慣の確立 (2)生活習慣の確立 (3)ICT教育の推進	(1)授業やHR・面談等で、適切な学習内容・量・方法について一年間継続的に指導する。 (2)挨拶を励行し、遅刻やスマホの扱い方などの生活指導を強化する。 (3)クロムブックを利用したICT教育を推進する。	(1)学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育み、自らの夢や目標の達成に向かわせる。 (2)朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なスマホの扱い方を習得させる。 (3)クロムブックを適切に利用しICT関係のスキルを向上させる。	(1)◎ (2)○ (3)○	(1)丁寧な授業展開や綿密な面談の実施で生徒の学習習慣や意欲の向上に寄与した。 (2)こまめな生活指導上の注意は施してきたが、年度当初スマホの使い方によるトラブルが続出した。粘り強い指導の結果学年後半には落ち着いて継続した指導が必要。 (3)コロナ禍により使用頻度が上がり、重要なツールとして定着しつつある。
高校2年	(1)学力の向上 (2)生活習慣の確立 (3)HR活動の充実	(1)それぞれの進路目標の実現に必要な学力をつけさせる。 (2)自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。スマホ・携帯の適切な扱い方を習得させる指導を強化する。 (3)HRでの議論をより活発化し、生徒が自らの考えを深めたり、課題の解決に努めることができるように指導する。	(1)模試成績の向上。 (2)朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なスマホ・携帯の扱い方を習得させる。 (3)内容をより充実させ、より多くのものを生徒に得させたい。	○	模擬試験の結果は昨年度よりどのコースも全体的に上昇している。遅刻数はコロナの影響もあり登校すべき日数は少なかったが、回数に応じた指導ができた。スマホ・携帯の扱い方には声掛けが今後も必要だが、こまめな声掛けを意識できたと感じている。HR活動に関しては、体育祭中止、文化祭の縮小はあったが、生徒たちは積極的に関わり、創意工夫をして取り組むことができたと思う。
高校3年	(1)進路目標の実現 (2)生活習慣の確立 (3)HR活動の充実	(1)それぞれの進路目標の実現に必要な学力をつけ、生徒の目標達成に向けて学年全体で取り組む。 (2)自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。スマホ・携帯の適切な扱い方を習得させる指導を強化する。生活習慣の維持に努め(1)の目標達成に繋げる。 (3)進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。	(1)(3)生徒の第一志望合格。 (2)朝礼遅刻を含む遅刻数、及びスマホ没収事案の減少。	○	(1)(3)入試制度改革やコロナ禍の影響が少なからずあったが、生徒の第一志望合格達成に向けて指導を行うことができた。結果については丁寧な検証が必要である。 (2)いずれも多くはないが、スマホの扱いについては学習用機器としての側面があり、課題もある。

V.各コース目標(コース会議)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
一貫コース進学	大学合格実績の向上	六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂。	模擬試験の結果。最終的な大学合格実績	○	京都大学の合格者を出せなかったのは残念であったが、国公立大学合格者は30でまずまずの結果を出すことができた。
一貫コース選抜	大学合格実績の向上	六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂。	模擬試験の結果。最終的な大学合格実績	○	国公立大学の合格10であり、浪人も少なく良い結果を出すことができた。
文理コース文理(理Ⅱ含む)	①国公立大学、難関私立大学の進学実績向上 ②入試に活用できる英語検定試験の学力アップ ③クラブ活動への積極的参加	①普段の授業、模試の活用等 ②普段の授業、朝学習等 ③各クラブ顧問と担任との連携等	①国公立25%難関私立大50% (文理全体に対する延べ人数合格率) ②GTECもしくは英検 ③年度初めと年度末のクラブ加入率の差	①○ ②△ ③△	①国公立31.6%、難関私立大40.7%であり、国公立大+関関同立で72.3%を達成できた ②英検の受験率を増やし、2級合格を目指していく ③コロナ禍により引退試合ができないクラブもあった。
文理コースアスリート	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	①△ ②○	①全国大会出場:水泳部 近畿大会出場:ハンドボール部 ②ハンドボール部:伊藤太一(U19日本代表候補) その他:トランポリン:西岡隆成(全日本選手権優勝)
英数コース	国公立大学を含む、第一志望大学への合格	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策&国公立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果。 【高3】①大学入学共通テスト結果。 ②第一志望大学への合格率	①△ ②○	①共通テストの結果がそのまま合格に直結 ②総合的な教科指導力が進路希望に追いついていない
S英数コース	難関国公立大学を含む、第一志望大学への合格	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、より高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策&難関国公立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果。 【高3】①大学入学共通テスト結果。 ②第一志望大学への合格率	①△ ②○	①共通テストの結果がそのまま合格に直結 ②総合的な教科指導力が進路希望に追いついていない
国際コースクラスA	①国際社会で通用する英語力の基礎作り ②大学入試に左右されない国際コース独自の評価の基準の確立と大学入試にも強い英語の指導方針の策定	①留学の事前・事後指導の充実 ②英検の全員受験	①外部テスト(英検) ②受験後の生徒へのアンケートと英語教科内での評価	①○ ②○	①高1では、コロナ禍における英会話合宿の中止などで十分な事前教育ができていない中、学年コース長が中心となり、春期講習で台湾研修に代わる企画などを行い、フォローアップをしている。また、次年度予定のカナダ短期留学が催行不能となったが、学年コース長が中心となり鋭意、代替案を模索している。 ②1年生では、準2級保持者が9割以上となり、2級も多数の合格者を出すことができた。問題集や単語帳から定期考査に英検の問題を出題したり、授業内で2次試験の練習を行ったりした成果が出たと思う。高3でも準1級が2名出るなど大きな成果を出すことができた。

国際コースクラスB	①国際社会で通用する英語力の基礎作り ②大学入試に左右されない国際コース独自の評価の基準の確立と大学入試にも強い英語の指導方針の策定	①留学の事前・事後指導の充実 ②英検の全員受験	①外部テスト(英検) ②受験後の生徒へのアンケートと英語教科内での評価	①○ ②○	①高1では、特に3学期の特別カリキュラムでこれまでにない集中した留学の事前指導ができた。GTECではほぼ全員が「海外の高校の授業に参加できるレベル」のスコアを獲得することができた。 ②1年生では、準2級保持者が9割以上となり、2級も多数の合格者を出すことができた。問題集や単語帳から定期考査に英検の問題を出題したり、授業内で2次試験の練習を行ったりした成果が出たと思う。高3でも準1級が8名、1級が1名出るなど大きな成果を出すことができた。
-----------	---	----------------------------	--	----------	---

Ⅵ各部の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
教務部	支援関係の教務内規の改訂	生徒支援委員会との連携	1学期中間考査で教務内規発行	○	新型コロナによる休校の影響で発行時期は遅れたが完成。今後現状を鑑みながら修正すべき部分は検証していく。
生活指導部	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③朝礼遅刻を含む遅刻指導 ①②③とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③朝礼遅刻数減少	①△ ②○ ③△	③は配慮が必要な生徒とそうでない生徒の区別が難しく工夫が必要
自治会指導部	①自主規律の確立 ②自治活動の活性化 ③学校行事の発展・教員の役割分担 ④コロナウイルスの影響による学校行事の形態変更や内容変更の検討	①自主規律HRの年間計画作成。 ②HR委員会、評議委員会、文体連の役割分担、実務遂行への指導。 その他自主的活動の活性化 ③文化祭委員会の活動計画への指導。各行事の目標を明確化。 事前からの教員業務分担を実施。	①執行部、各委員会活動の年間計画作成 ②活動目標、年間計画、総括 ③各行事の実行委員の獲得と意識化・役割の明確化	①○ ②△ ③○	新型コロナウイルスによる影響が非常に大きく、当初計画していた自主規律HRや様々な行事を実施できなかったが、その中で生徒たちのアイデアを引き出し、文化祭では日程を変更、規模を大幅に縮小しての実施となったが、コロナ禍における新たな文化祭の形を見出すことができた。
進路指導部	進路情報の適切な提供	大学受験において非常に重要なポイントである進路情報収集に関して、より自発的・能動的に行動するよう働きかける。進路指導室内の資料の充実と、インターネットを活用した情報収集の仕方を学ばせる。	学校に届く膨大な紙媒体及びデジタルコンテンツを取捨選択して、教員および生徒に適時配布・配信していく。教員の指導力向上のための教員研修などへの積極的な参加を推奨する。	○	対生徒・対教員に向けての、資料・情報提供を継続的に行うことができた。実際にそれらを多数の生徒・教員が利用・活用してくれていた。

Ⅶ各委員会の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国際教育委員会	①コロナウイルスの影響による留学内容の変更等に対応(国際コース) ②渡米留学志願者の一定数維持(EP) ③姉妹校関係を新たに構築する学校の模索(EP) ④入学する生徒のレベルアップ(中国人留学生) ⑤中高大大プロジェクト(SBS)	①安全を最優先しつつ、かつ形式をこれまでも変えてでも留学と呼べるものを経験できる形を模索する ②現状のアピール方法を変えて、制度の良さが生徒たちに十分に通じるようにする ③米国以外の選択肢を模索、特に台湾の新設高級中学とは接触を取り続けたい ④日本語の入試は然るべき方に作成をお願いし、合格できる水準を上げる ⑤大学、教育大の似たような活動に携わる先生、学生との交流をはかる	①2020年内に実施 ②応募者10名程度 ③候補学校の訪問、連携 ④来日生徒のN3取得(正規入学後の7月) ⑤大学の先生、学生との交流機会を持つ	①△ ②× ③× ④○ ⑤△	①留学の代替案となるプログラムは複数提案をいただいたが、いずれも費用対効果を考えたときに適当なものが見当たらなかった。十分検討は重ねたが、留学と呼べるプログラムの実施には至らなかった。 ②この状況下で更に男子のみの紹介ということ、で、アピールが非常に難しい年度であった。 ③台湾の学校を1つの選択肢としたかったが、研修へ赴くこともできず計画はストップしている。 ④N3の取得は生徒によるが、遅れて来日した生徒たちは非常に優秀な成績を修め今後に期待できる。 ⑤大学との連携は取れなかったが、オンラインとなったイベントにも参加し、一定の活動は続けることができた。
ICT委員会	快適なIT環境の整備 ICT教育の推進	①ネットワーク・IT機器の保守 ②キャンパスプランの運用 ③タブレット活用法に関する研究	①無線LAN環境、ChromeBookを含め、適切な保守を行う。 ②キャンパスプランの運用方法の把握・模索を行う。 ③タブレット導入に伴い、活用方法の研究等を行う。	①○ ②○ ③△	①2021年度に向けて、必要なIPアドレス数の確保ができた。 ②キャンパスプランに関しては、試行錯誤しながらとなったが運用にこぎつけた。 ③今後、より一層必要となってくる。
入試広報委員会	建学の精神を中心にした広報活動に努める。	中学校訪問や外部説明会の教員負担の公平化に努める	説明会などの広報活動において入試広報委員中心に全教員が協力する。	△	外部説明会への参加が困難な教員には、校内説明会に積極的に参加していただくということで、教員負担の公平化を改善しつつある。
いのちの教育委員会	①保健指導に関して 生徒による保健活動を活発にする ②いのちの教育に関して 「いのち」の尊さや厳かに触れ、またその神秘を体験的に感じる機会をつくる	①行事での救護活動・保護犬活動・各種ポスター作成活動 ②AED講習・いのちの日・響プロジェクト・ボランティア活動・中3カフェテリアの取り組み	生徒保健委員会の実施内容・行事ごとの救護係等 ・保護犬活動 ・熱中症/感染症ポスター作成(中)	①○ ②○	①自分たちでできることをしっかり考えいろんな行事を企画・実施することができた。 ②全体で集まっていた行事が1年間通してできなかったがいろんな方法で実施した。
人権教育委員会	人権教育に関して 社会に存在する様々な人権問題に関心を持ち、理解を深める	人権HRの年2回以上実施	各学年での人権教育の実施の際の生徒からの感想文	○	就職差別など中高各学年でHRを行った。教員研修が必要だが、時間を取ることが難しい。こまめに発信していきたい。
宗教教育委員会	宗教教育に関して 礼拝や祈り、各種行事を通して自他の尊厳を大切にすることを養う	礼拝・行事でのマナー向上	○全校的な理解と協力を得ること ○多岐に亘らせず丁寧に行うこと	○	コロナの影響で行事等は大幅に縮小せざるを得なかったが、中学1年生を中心にできるかぎり行事を体験してもらった。新しくなった礼拝堂で、学院の記念行事や、生徒の活動、PTA聖歌隊などにも用いられている。PSTISの紙面も充実した。

Ⅷその他委員会の目標(1)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
生活指導部(生徒支援)	支援制度の確立・全教員への理解と認識の強化	①生徒支援理解を目指した積極的な事例研究や研修・情報共有 ②合理的配慮の実施と目標達成に向けた指導 ③自宅学習支援生徒への指導・対応	支援制度や合理的配慮に対する理解・認知 各支援生徒の目標達成具合	①△ ②○ ③○	研修はコロナの影響で1回しか参加できなかった。情報共有を密に行いたい。合理的配慮の実施は生徒相談会の開催で取り組むことができた。今年度の自宅支援生徒が大学受験をし、合格の実績を複数積み重ねることができた。

危機管理委員会	①全構成員の危機管理意識の強化 ②防災訓練等のさらなる発展	①不審者一時対応の発展 ②避難訓練の発展	①②訓練が充実したものになったか。	△	今年度はコロナの影響で集団行動を含めた不審者対応訓練・避難訓練は実施できなかったがNHKの映像を利用し実際に地震が起きたときに想定される事を考えてみた。少し残酷とも思える表現もあったが、生徒には配慮しながら、実際のことを想定した訓練を行いたい。
修学旅行委員会	①一貫コースイギリス修学旅行の代替地の確認 ②石垣島修学旅行の代替地	①②との委員会で検討し、業者に依頼	2020年度、2021年度の修学旅行については新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、慎重に判断したい。	○	コロナの影響で3月に行き先を変更して実施。一貫コースのイギリスは信州方面のスキーor金沢観光を選択、S英数・英数・文理コースは北海道を蔵王に変更し、スキー講習を実施した。沖縄は離島ではなく本島で修学旅行を実施した。キャンセル料金と緊急事態宣言の兼ね合いで難しい判断を要求されたが、保護者の方に理解もあり、適切な対応ができた。
カリキュラム委員会	新カリキュラム案について理解を深める	教科中心に原案を作成	なし	○	2022年度以降の高等学校カリキュラム完成
アスリート委員会	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備、選考会への派遣	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	①△ ②○	①全国大会出場:水泳部 近畿大会出場:ハンドボール部 ②ハンドボール部:伊藤太一(U19日本代表候補) その他:トランポリン:西岡隆成(全日本選手権優勝)
予算委員会	①経費削減にさらに努める ②予算の適正配分と適正執行	予算委員会での議論を深める	委員会での振り返りをていねいにおこなう	○	F館の換気扇、アクリル板などコロナ関連で予算化されていない支出が多くあったが、その他は適切に処理できた。
入試委員会		高校入試ガイドラインの見直し	1学期中に結論をだす	△	再検討の必要あり
補導調整委員会	①補導案件の未然防止 ②適正な補導措置の実施	①日常および特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ ②生徒の事情、学年間・案件による差異の出ないよう慎重な議論	①補導案件の減少 ②措置生徒の更正	○	案件数は例年通りだが、コロナによるストレスがあったのか、暴力案件が増加した。また、複数名が関係する案件が増加し、説諭した生徒数が増加した。
M1会議	桃山学院中高の将来像を考える	定期考査ごとに会議を設定し、進路実績の観点から、また校風の観点から、保護者や生徒のニーズという観点から本校の在り方考える	2020年には京都大学合格者数を安定させる新クラスの設置に向けて意思統一を図りたい。	△	全員を集めた会議は2回しか行えなかったが、小さな会議を重ねることで新クラスに関して、一歩進めた議論ができた。来年度早々に全体で議論をすすめて結論をだしたい。

Ⅷ 各教科の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国語科	教科指導力の向上	①指導法・情報・資料の共有 ②漢字検定 ③小論文模試・小論文講座 ④ICT活用も含めた新たな授業展開の共有	①1年次より、状況に応じてその都度具体的な目標設定をしながら学習に取り組める体制、小論文への意識を高め表現力を養うと共に社会への関心を持たせる仕組みを整えていく。 ②新入試に向けての対応を協議する。	○△	新課程・新入試に向けての対応は、各々で模索中の状況である。小論文への取り組みは、学年などでの認知されるようになり協力体制ができてくると共に、高校3年生では進路主導で行っていくこととなった。授業配信においては、非常勤教員まで含めて協力し合って学習環境の維持に努めた。
地歴公民科	生徒の学力実態・目標に応じた指導力の向上	①新過程・入試改革への対応検討 ②デジタル教材・データの蓄積・共有 ③教科指導力向上	①今後の入試制度・新過程に応じた新カリキュラムの検討・提案 ②電子黒板で活用できる教材の蓄積・入試問題データベースの整備 ③研修・セミナー等への参加促進、授業事例の共有	○	①新カリキュラムでは、理系地理の時間数確保に問題が残った。 ②教科内で情報を共有しており、今後も整備・拡充を図る予定である。 ③外部研修等の案内を共有している。
数学科	教科指導力の向上	①大学入試共通テストへの対応 ②ICTを用いた授業、指導法の研究と充実を図る ③数学オリンピック、数学甲子園への指導 ④教員同士による指導法の研究会	①研究会への参加と情報の共有、共通テストの結果 ②ICT教材・授業の蓄積、情報交換 ③数学オリンピック、数学甲子園での予選成績の結果 ④授業へつなげることができたか	①△ ②○ ③○ ④×	①研究会は中止が多く、案内したものに對する本校教員の参加も少なかった。 ②授業配信により、全員のスキルが飛躍的に向上した。 ③講習を行い、12名の生徒を参加させることができた。予選通過はできなかった。 ④コロナ禍の影響もあり、実施できなかった。
理科	生徒の学力・表現力の向上を目標とした指導力の向上 ICT機器の授業への活用	①各種自然科学系オリンピックへの対応 ②新課程・入試改革への対応検討 ③高3講習を全員で担当 ④ICT機器を用いた授業を研究する	①各種自然科学系オリンピックでの結果 ②カリキュラムの検討 ③共通テストの結果 ④授業見学や、そのあとの反省会の充実	①◎ ②○ ③○ ④△	①入賞者が出て、大いに盛り上がった。 ②特に大きな変更がない。 ③初めてのテストとしてはよい結果が出ていた。 ④今年度は授業見学を多く実施することができなかった。反省会もそれにしたがって少ししかできなかった。
英語科	「大学進学実績の向上」へ向けた教科指導力の確立	「大学進学実績向上」という本校の最重点目標達成を踏まえた目標合わせ・指導法の共有・研究 ・2020年入試改革への対応 ・英語4技能検定試験(対策・検討など)	①「大学進学実績向上」という目標の達成へ向けた目標合わせができていくか ②学校が掲げる目標達成へ向けた授業・取り組み面におけるチャレンジが各所でできているか ③入試改革の情報共有・対応	△	コロナ禍のため、いくつかのプログラムが実施できなかったが、その環境の中においても、ICT機器を用いて最大限教育活動を展開した。「大学進学実績向上」への目標合わせは一朝一夕にはなかなか具現化できないものであるが、次年度も継続してチャレンジしていきたい。
保健体育科	教科指導力の向上	授業見学の強化	実技力がしっかりと身についているか	△	コロナの関係で授業に制限がかかっていたがいろんな代替案で対応した。
芸術科	授業力の向上	授業見学の強化 タブレット機器の活用検討	実技力がしっかりと身につく、作品・演奏の質が高まっているか。芸術に親しむ心を養えているか。	△	コロナにより実技授業の時間が減ってしまった。特に音楽は歌や吹奏楽に取り組む事ができなかった。タブレットは少しずつ活用している。
情報技術科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①授業見学の強化 ②教材の改善・打合せの充実	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか	①○ ②○	休校中のオンライン授業では、教師間で連携を密にし、種々の方法で教育活動を実施することができた。コンピュータ教室に依存しない授業の手法を開拓できたことは、実習を多く取り入れる我々の科目にとって進歩であった。
家庭科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか	○	新型コロナウイルスの影響で調理実習は実施できなかった。
宗教科	①学年毎のシラバスの継続性 ②授業内容の充実と授業力の向上 ③学院方針アイデンティティ教育の実施	①教科会議で打ち合わせを密に ②高1の総合(アンテナタイムⅠ)で1～2コマ程度行う ③道德の教科化に向けた検討	他校事例などの情報収集や教科会議での振り返り。教務部との調整。	○	産休に入った教員の代わりに、急きょ、近隣教会の聖公会司祭に応援をお願いし、建学の精神につながる総合学習・宗教の授業を切れ目なく行うことができた。

X.その他	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
職員会議	(1)会議の円滑化・時間短縮 (2)活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	○	コロナの影響でグーグルMEETを利用したオンラインを中心に行った。意見を述べにくい事と回数が増えるにつれて遅刻が増えてきたことがマイナス面だが、従来の形と併用しながら進めていきたい。
運営委員会	(1)会議の円滑化・時間短縮 (2)現場の状況を把握し共有する	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	○	スムーズに実施できた。
M1プロジェクト	各学年の模試などの学力推移の情報共有	①模擬試験の結果がでしだい実施し、コース別、教科別で得意分野、苦手分野を把握 ②苦手分野の克服に関して情報交換	苦手分野を克服し、学力向上につながったかどうかを模擬試験ごとに検証する。	△	新型コロナウイルスの影響もあり一度しか実施できなかった。
判定会議	(1)会議の円滑化・時間短縮(2)活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	○	おおむねスムーズ判定会議を実施できた。自宅支援生徒を対象にした判定会議のメンバーを増やす変更を行った。
事務室	①業務改善および計画通りの会計業務運営 ②施設・設備保全計画の立案 ③効果的な生徒募集広報の実行	①業務進行の可視化と業務内容の見直し ②具体的な中期保全計画の立案 ③効果的な広報戦略を立案・実行、中高ともに志願者増、予算定員の確保	①業務改善により一人当たりの平均残業時間対前年比マイナス5% ②計画通りの実行及び、突発的な施設設備改修については、予算と優先順位を考慮しての実行 ③予算定員の確保	①○ ②○ ③○	新型コロナ感染拡大による業務変更、また5月末まで休校となったこともあわせ、一人当たり平均残業時間は半減となった。今後、感染拡大により変更された業務内容もふまえ、引き続き業務改善を行う。休校期間へ、施設設備改修期間を変更し、施工したことにより、教育活動を妨げることが軽減できた。
保健室	(1)感染症対策 (2)基本対応の徹底 (3)こころのケア	情報収集と迅速な対応 来室生徒(特に外科)の情報共有 SC等との連携	校内感染が抑制できたか 関係者と情報共有ができ、保護者に安心感を与えられたか(特に外科)	○	校内感染対策は全校一丸となって実施できた。コロナの影響で外科処置は少なかったが、情報共有は徹底できた。
図書館	(1)図書館利用と読書の推進 (2)図書館登校生徒への対応の充実 (3)将来の蔵書管理PC更新計画	(1)生徒による進路(大学・職業等)探究に資する蔵書の充実をはかる。小論文入試対策や、大学入試改革を意識した選書や広報を引き続き行う。 (2)図書館登校生徒に適切なケアを行い、必要な情報をスタッフと共有する。 (3)将来の図書館蔵書管理PCのあり方を検討する。	(1)過去データとの比較 (2)生徒の思いを大切にしつつ、精神的な安定と、教室復帰を目標とする。 (3)蔵書データ等のクラウド保管の可能性や生徒が使用している端末との連携等の可能性などを研究する。	○	コロナ蔓延の影響で、年度内は座席利用を減らし、消毒を行うなどの特殊な対応を行った。
同窓会	中・高教員の会費徴収率の向上	該当教員にたいする声かけ	「桃溪」配布時に実施	△	コロナの影響で集まり自体ができなかった。
PTA	昨年度から始まった新体制をより洗練されたものとする。	PTA活動の準備内容等の情報を担当教員、職員、PTA役員保護者とて共有する。特に、ネット掲示板を活用してPTA活動の情報を教職員全員で共有する。	PTA担当教職員による振り返り。	○	コロナ蔓延の影響で文化祭等僅かな取り組みを除いてほとんどの活動を縮小した。保護者の皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。